

監修の序

ここに「美しい画像で見る内視鏡アトラス 上部消化管」をお届けする。

2023年5月に開催された第105回日本消化器内視鏡学会総会の際、羊土社編集部の大家有紀子氏から、内視鏡画像アトラスの出版についてお話をいただいた。東大病院でともに内視鏡診療に従事し、同じ研究室を巣立ち、現在、それぞれ帝京大学、東京都健康長寿医療センターで活躍している小田島慎也先生、小野敏嗣先生が編集をお引き受けくださったので、東大消化器内科の関連病院を中心とした信頼のおける先生方に執筆をお願いし、小生自身も監修として本書に携わらせていただくこととなった。

編集者である小田島先生、小野先生の迅速かつ綿密な項目立て、執筆者選定を経て、同年9月には執筆依頼が出され、その熱意を受けた先生方からも、ほぼ予定通りに原稿を上げていただき、2024年10月に発行の運びとなった。企画から1年強のスケジュールで出版にこぎつけられることは珍しく、羊土社編集部の皆様の力強いサポートに加え、類まれな才能を持つ編集者お二人のご尽力と、素晴らしい原稿を締め切りまでにお寄せくださった執筆者の先生方のご支援ご協力の賜物であると、この場を借りて関係各位に心から感謝の意を表したい。

内視鏡は、アートとサイエンスの融合である。美しい内視鏡画像とは、単に見た目の美しさのみならず、多くを語りかけてくれる情報量の多い画像である。今回取り上げた疾患の中には稀にしか遭遇しないものもあるが、まずは内視鏡画像をじっくりと眺めて目に焼き付けてほしい。視覚から入り、疾患の概要、特徴的な所見と診断、鑑別とピットフォールと読み進めていただければ、自ずとその疾患の本質が理解できるはずである。一人でも多くの内視鏡医に本書を手にとっていただき、日常診療にお役立ていただければ、監修者としてこの上ない幸せである。

2024年9月

東京大学医学部附属病院消化器内科・臨床腫瘍科
藤城光弘